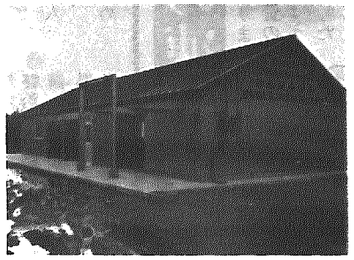
水稲育苗施設完成

50ha規模・苗の販売も

木津みずほ生産組合



水稲の出芽が行われる育苗施設

農事組合法人木津みずほ生産組合が、昨年十月中旬から木津農協倉庫脇に建設を進めていた水稲育苗施設が完成し、十二月十一日にしゅん工式が行われました。

育苗施設は、鉄骨平屋建て（一七一平方㍍）の水稲の出芽室と作業室の施設と、このほかに、ここで出芽させた苗の緑化・硬化を行う育苗ハウスが十五棟（延べ約二、六〇〇平方㍍・三月建設予定）となっています。

これは、新農業構造改善事業を導入して建設したもので、建設費は約一、九〇〇万円、国・県・村から五割強が補助されます。

同組合は、三月からこの施設で作業を開始し、五十㌶規模（四回転）五～六品種の育苗を行い、良質の苗の販売（三十㌶分）も計画しています。なお苗の希望申し込みは、農協が窓口となって取りまとめをする予定となっています。

九戸の農家でスタート

今井　誠　代表理事

組合は昨年四月に発足したが、本格的な組合としての活動は、この育苗作業からであり、九戸の農家で協力し頑張っていきたい。

農業情勢が厳しい中で、協業化のメリットを生かしてコストの低減、生産性の向上を図って、農業経営の合理化をすすめるとともに、後継者を育成できる組織としての基盤づくりも合わせて行い、今後の村の農業形態の発展につなげていきたい。

この人を訪ねて

最近になってやっと農業の楽しみわかる

沢海佐藤豊栄（38歳）

昨年十一月に行われた村農業祭の農産物品評会で、見事に村長賞（長芋）を受賞した佐藤豊栄さんをご紹介します。

佐藤さんは、昭和五十四年に県認定の青年農業士となり昭和六十年には、県青年農業士海外研修（ヨーロッパの五ケ国）に参加するなど、農業に意欲を持って取り組んでおり、地域の園芸生産出荷組合の役員として、世話役的活動も積極的です。

最初は農家の長男ということで仕方なく、勤めのかたわら米作りをする程度だったという佐藤さんですが、二十二歳のときに結婚をしたのを契機に、蔬菜作りにも本腰を入れるようになったそうで、現在では奥さんと二人で水稲三・二㌶、畑一・五㌶に長芋、チューリップ（球根）、キャベツなど生産する専業農家の大黒柱です。

最近になってやっと農業の楽しみがわかってきたという佐藤さんは、「蔬菜作りで自分が種を播き苦労して栽培したものを出荷し、その売上げがこれだけの面積の中から取れたということを実感したとき、米にはない喜びがある」と話していました。

また、本人もまだ若いのですが、子供に農業を継いでもらいたいかという質問には「自分もある程度、自分なりに面積を拡大してきて、専業でやって行けるという自信がついてきたんだから、同じことの繰り返しだと思うが、子供にもたとえ若いうちは余所で飯を食って来ても最終的には、家を継いでもらいたい。」と希望を語っていました。

（11/27有放より抜すい）

農業に意欲を持って取り組む

母と子の会話

④　関根萩栄

心の中にお父さんを

今日の社会は、父なき社会だなどと言われています。子供の心の中にあるお父さんの影が薄くなってきていることだと思います。

それは、自分なりの生き方をしっかり持とうとしない、お父さん自身にも責任がありますが、それよりも、お父さんを中心とした家庭づくりを深く考えようとしない、お母さんにより大きな責任があるのではないでしょうか。お母さんの心の中に、お父さんがしっかり生きていてくださるとき、子供の心の中にもお父さんの存在が揺るぎないものとなって、少しぐらいの心配をしても、力強く乗り越えて生きていく子供に成長していけるのだと思います。

母と子の対話の中で、自然にお父さんの存在が揺るぎなく育っていくように、心掛けることが大切だと思います。

次の作文は、ある町の小学校一年生の女の子が書いたものです。

『お父ちゃんの仕事』

お母ちゃんといっしょにお父ちゃんの山へ行きました。山で機械の音がしたので、「あの音、何の音」とお母ちゃんに聞いたら、「大きい石に火薬で穴あけてんや」、「それからどうするん」言うたら「今度は大きい石に、カチン、カチン穴あけて、大きいカナヅチで割るんや」お父さんは山の高いところで、大きい石を割っとるんです。こわあい仕事やと思います。

もし、あんな石が落ちてきたらつぶれちゃうのに、どうするんやろ。

それで、お母ちゃんは晩ご飯のとき、お父ちゃんにご馳走してあげるんです。山から帰ってきたら嬉しいんです。私も肩たたいてあげるんです。「父ちゃん怪我したらあかんで え」言うたら、「おお、怪我なんかしいへんぞ」言うて笑ってるんです。

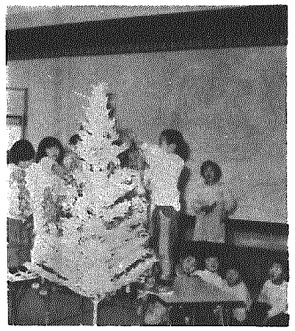
この子は、お父さんの仕事の大変さを説明されなくてもよく理解しており、子供の心の中には、ちゃんとお父さんが生きております。お父さんが無事で山から帰ってこられたときの嬉しそうなお母さん、お父さんの仕事をねぎらわれる晩ご飯のご馳走にこめられるお母さんの心、これが響きあって、子供の中にお父さんが揺るぎなく育っているのです。

毎日の生活の中で、何気無く交わす家族の会話や行動の中から、子供たちがいろいろな事を学んでいることを思うと、それぞれの家族において、まず、お母さんの心の中に、一家の中心としてのお父さんというものをしっかり意識して、子供たちに接してくださることが、何よりも大切だと思います。

（原稿は有線放送で放送されたものをまとめたもの）

きれいにできたツリー

保育園で飾りつけ



飾りつけをする園児たち

小杉保育園で早くも十二月四日、クリスマスツリーの飾りつけが行われました。

遊戯室で保母さんからキリスト様のお話しを聞いたあと、園児全員が飾りを持ち、かわるがわる台に乗っては、大きなツリーに思い思いに飾りつけをしました。

きれいに飾られたツリーに電球の灯がつけられると、園児たちからかわいらしい歓声が終日挙がっていました。

なお、十八日のおたのしみ会には、ツリーを飾りつけた部屋にサンタのおじさんがやってきて、みんなにクリスマスプレゼントを配ってくれました。

小杉分館長に渡辺元也さん

十一月十五日付で公民館小杉分館長に渡辺元也さんが任命されました。

これは、遠藤左一分館長の逝去によるもの。

郵便局から誕生記念アルバムを贈呈

郵政省では、十月の「簡易保険・郵便年金月間」の記念行事の一つとして、十月一日から十月十五日までの新生児の誕生を祝い、健やかな成長を祈って、郵政局長のお祝いのことばを添え誕生記念アルバムを贈呈しました。

横越村内では次の六名の方に、過日横越局長が持参いたしました。

（　）内は保護者

敬称略

遠藤　奈央（達栄）二本木
渡辺ありさ（光也）二本木
佐藤佳奈子（弘明）横　越
栗山　靖史（孝則）木　津
高橋　喜之（望　）小　杉
佐藤　望美（勝利）横　越

第一回　横越村短歌大会

（田村忠雄氏選考作品）

一位　大　塚　ヨ　ネ
異なれる世界を持ちて秋の夜を羽虫とれれとひとつ灯の下

二位　田　村　金　治
すそ野吹く風に混じりて稲はさの香り満ちたる道を通りぬ

三位　栗　田　ひとみ
子に残す美田なければ争いもなきと言う夫汗し働く

四位　市　村　正
農継の絶えたるまゝに取り入れの喜び半ば疲れ重なる

五位　中　川　美英子
やさしさの言葉にせぬを悔やみつつ夜更けの厨で茄子を漬けおり

佳作　田　村　きよし
脳を病む妻を残して逝かれまじ憂きこと多し老の山坂

佳作　板　垣　麦　村
扇売る京の老舗の紅ごうし

佳作　岩　瀬　房　枝
大根を間引きておれば囁きに似る雨音の止みてはまた降る

佳作　斉　藤　甚　作
仏前に供えし蓮は萎いはじめはや精霊の去る送り盆

佳作　坂　爪　ナ　ツ
些細なる事に声をば尖らせし息に逆らわず笑みて紛らす

子供の

蒲原三十三観音様に参詣して　⑤

木津　山田正三

繁栄社会での物質的に恵まれた生活は、「　　いのか」との不安と空　　が伴う。

観音様や霊場巡りが、最近特に盛んに行われている所以もこれであろうと思う。

田村さんの『蒲原三十三観音様に参詣して』は、田村さんの学びの友桜井広浩さんの懇願により執筆されたものである。この蒲原順礼三十三番札所は、享保十五年（一七三〇年）水原町長楽寺（今三十三番結願の寺）十七世如霖道実が指定したという。蒲原三十三観音様というが、その分布は旧北蒲原郡・中蒲原郡に限られている。本村には二ヶ寺が札所に入っており、大栄寺が十二番、法憧寺が十三番である。

この本には、各観音様の御詠歌、お寺の位置、宗派、本尊、由緒が詳しく載っている。

この立派な本も残部が殆どないので、玉鉾会では、田村さんの了解を得て二百部増刷して会員に頒布し、玉鉾会の数回の研修視察で、二十五寺参詣した。

ついでながら、終戦当時旧大江山村丸山小学校に下正中という校長がおられた。昭和のはじめの若いとき、新潟県各地を自転車で駆け巡り、『越後三十三観音縁起集』と『蒲原三十三観音縁起集』を自費出版されたと新潟日報が報じていた。大栄寺に一部保存されているということである。

農業用軽油免税の申請手続きが変わります

農業用（トラクター・コンバイン等）に使用する軽油免税の申請手続きが、次のように変わります。

農業用に使用する軽油の免税申請手続きについては、役場で実施されてきましたが、今年から石油類販売店（ガソリンスタンド等）で申請手続きが行われることになりましたので、石油類販売店で申請手続きをされるようにお知らせいたします。

白色申告者の決算説明会

事業所得などの合計所得金額が三〇〇万円を超える場合は、白色申告者でも記帳や記録の保存などが、義務づけられています。

新潟税務署では、収支内訳書の作成方法等について、次の日程により説明会を開催いたしますので、該当の方は是非御来場ください。

日時　62年1月21日(水)
午前9時30分～11時30分
午後1時30分～3時30分

場所　新潟税務署　大会議室

問い合わせ　会場（☎二二八二一五一）